

ひみこちゃんが
「大和さくらい100選」
一度は行ってみたいスポットを紹介 - その34 -

今回は、「大和さくらい100選」に選ばれている「赤糸・縁結びの伝承」と、ビューポイント「三輪山を仰ぎ見る」を紹介するよ！

赤糸・縁結びの伝承

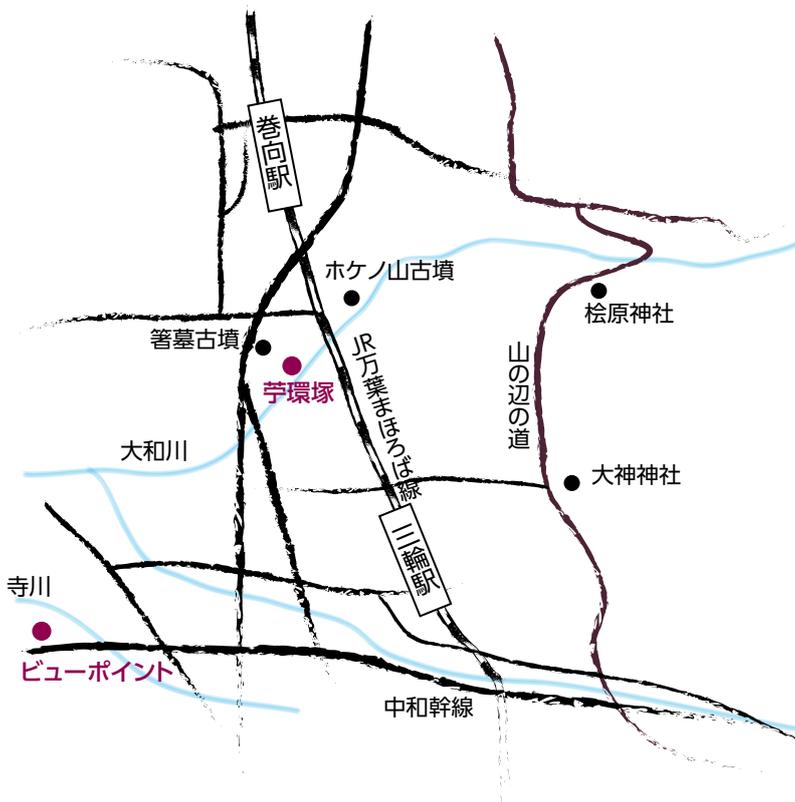
『古事記』『日本書紀』によると、第10代崇神天皇の時代、疫病が大流行しました。天皇は大物主大神の子孫にあたる意富多々泥古（大田田根子）を神主として、大物主大神を三輪山に祀らせ、これにより、国内が安らかに治まったとあります。そして、この意富多々泥古が、大物主大神とその妻の活玉依毘売（活玉依姫）の子孫であることにまつわり、次のような伝説が『古事記』に記されています。



芋環塚

芋環塚は、伝説で登場した麻糸を巻いていた糸巻（芋環）を埋めた場所と伝えられているよ。

昔、活玉依毘売という美しい娘がいました。ある夜、容姿や身なりが当時比類ないほど立派な若者が、突然この娘のところへ訪れました。2人は互いに愛し合い、結ばれました。その若者が娘のもとへ通うようになり、いくらも時間が経たないうちに、娘は身ごもりました。不思議に思った娘の両親は「夫がないのに、なぜ身ごもったのか」と聞くと、娘は「お名前は存じませんが、毎晩通ってこられる美しい男の方といっしょに過ごすうちに、自然と身ごもったのです」と答えました。その男の素性を知りたがった両親は「赤土を床の前に撒き散らし、つむいだ麻糸を針に通して、その男の着物の裾に刺しておきなさい」と言い、娘は教えられた通りにしました。明るる朝に見てみると、針につけた麻糸は、戸の鍵穴の中を通過して外へと出ていて、残った麻糸は、糸巻にたった三巻だけでした。その様子から男が鍵穴から出ていったことがわかり、その糸を頼りにたどっていくと、三輪山に着いて、神の社のところで終わっていました。このことから、生まれる子が神の子だと知ったのです。そして、このとき糸巻に残っていた麻糸が三巻き（＝三勾）だったことにちなみ、その地を名付けて「三輪」と呼ぶようになりました。



ビューポイント

三輪山を仰ぎ見るスポットとして大和さくらい100選に選ばれています。夏には、三輪山を中心に青垣の風景も楽しむことができます。



三輪山を仰ぎ見る（大福から）

「ひみこちゃんのページ」

<http://www.city.sakurai.lg.jp/himiko/index.html>

観光まちづくり課

(☎ 42 - 9111 内線 342)

twitter @himiko_chan